

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2672900293
法人名	社会福祉法人 秀孝会
事業所名	グループホーム京都ひまわり園
所在地	〒614-8062 京都府八幡市八幡清水20番地 (電話) 075-983-8841

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成22年3月19日	評価確定日	平成22年6月29日

【情報提供票より】(平成22年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日	
ユニット数	2 ユニット	18 人
職員数	17 人	常勤 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 13.33 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨
	2階建ての1,2階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000万円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,350 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2			
年齢	平均 87.7 歳	最低	81 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金井病院 いばら木整形外科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム京都ひまわり園は、八幡市で、要介護高齢者に対する事業を多様に経営する社会福祉法人秀孝会の一事業所である。法人本部は道を隔てた向かい側にあり、本部施設とは研修や、行事、人材面で深く連携している。ホームは鉄骨2階建、一見小規模な施設に見えるが、屋内は写真や利用者の作品を飾り、オープンキッチンのあるリビングは至って家庭的な雰囲気、空間である。ホームに隣接して畑があり、野菜や花が栽培されている。収穫した野菜は食卓にあがり話題になる。当日は菜の花が花瓶に生けられ春の盛を感じさせられた。訪問当日はホーム前庭で軽トラックで運ばれてきた野菜が売られていた。ホームの食材が品定めされながら大量に購入され、利用者も財布片手に野菜の香りや、手触りを確かめ買物をされる見慣れた光景が展開されている。当ホームは日常生活を「当たり前前に過ごす」ため、見落としがちなケアについて、全職員が共有できるようマニュアル化に取組もうとしている。理念や、基本姿勢を振り返り管理者を中心に実践に向かおうとされる、この手堅く着実な姿勢は当ホームの特徴であり、評価できる点である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ケース記録の書式を変え、一ヶ月毎に評価できるものに変更している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価の項目に評価結果以上に職員に求められている点のあることを伝え、白紙の自己評価を職員に渡し、書かせている。当たり前のこととしてやっていた実践が評価され、やっていたよかったと自信となったこと。気付いていなかった実践を指摘され、見直しや、再確認する機会となったとケアの改善につないでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は要綱が作成され、地区区長、民生委員、市職員、入居者家族、当該事業所部長、ホーム管理者がメンバーとなり隔月に開催され、記録が残されている。今年度もメンバーから地域情報を得て、公園清掃、盆踊り等の地域行事に多く参加できた。結果ボランティアの訪問も増えている。新年度から老人会、傾聴ボランティアに会議メンバーに加わってもらい多様な目線でホームを知ってもらい意見を得たいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの行事には案内を家族に出し、年2回行事の後に家族会を開いている。ホームへ要望があれば「家族会意見」としてまとめ家族代表が運営推進委員で報告し、運営推進委員会にて検討されている。居室が汚いと意見に、毎週日曜日を掃除の日と決め対処している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会・老人会には加入できていないが、町会長の配慮で行事案内等の情報は届いている。地域行事の盆踊りに今年度は夜まで参加し楽しんだ。公民館まつり、敬老会、保育園児との交流、お寺のコンサート招待と、地域交流も日常化、定着化しつつある。買物は、毎日出かけ地域とも馴染みの関係が出来ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設にあたり職員で「第2の我が家、第2の家族」をホームの独自理念に、同時に基本姿勢を「入居者が自ら行動できるように考えて関わる。入居者のペースに合わせ、手を出しすぎず、見守り、ゆっくり待つ。」と定めている。法人理念「照千一隅」と共に、ホームの広報紙「便り」のトップに毎号記し、家族や、関係者に向け発信している。理念は、事務所、玄関に表示されている。	○	理念は、ホームページや、パンフレット等に記載され、広く市民に周知・理解されるよう取組を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿った実践に向けケアマニュアル作成に職員全員で取り組もうとしている。日常生活を当たり前にするために、当たり前すぎて抜けがちな点を、職員全員で確認・共有し実践につなげようと考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会には加入できていないが、町会長の配慮で行事案内等の情報は届いている。地域行事の盆踊りに今年度は夜まで参加し楽しんだ。公民館まつり、敬老会、保育園児との交流、お寺のコンサート招待と、地域交流も日常化、定着化しつつある。買物は、毎日出かけ地域とも馴染みの関係が出来ている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価の各項目を理解することの意味を職員に伝え、職員に書かせそれをまとめている。当たり前のこととしてやっていた実践が評価され、やっていてよかったと自信となっている。介護記録面では問題点を指摘され、見直している。評価は法人、運営推進会議に報告している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は要綱が作成され、地区区長、民生委員、市職員、入居者家族、当該事業所部長、ホーム管理者がメンバーとなり隔月に開催され、記録が残されている。今年度も委員から地域情報を得て、公園清掃、盆踊り等の地域行事に多く参加できた。結果ボランティアの訪問も増えている。新年度から老人会、傾聴ボランティアに会議メンバーに加わってもらい、多様な目線でホームを知ってもらい意見を得たいと考えている。		

京都府：グループホーム京都ひまわり園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人本部の管理者と共に、市の担当部署を尋ね、相談や情報交換をしている。認知症のキャラバンメイトの講習会講師、ヘルパー研修、地区民生委員の会議で話をするなど、市との連携のもとに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日訪ねてこられる家族から、3ヶ月1回程度の家族もある。来所時、電話にて家族との情報交換を随時している。行事の写真は季刊の「便り」に掲載するほか壁に掲示している。広報紙「便り」は写真中心に編集され、法人の理念、ホームの生活、職員の異動、苦情受付窓口を毎号記載し家族との情報媒体になっている。題字は複数の利用者が書いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの行事には案内を家族に出し、年2回行事の後に家族会を開いている。ホームへ要望があれば「家族会意見」としてまとめ家族代表が運営推進委員で報告し、運営推進委員会にて検討されている。居室が汚いとの意見に、週2回の掃除の日を設け対処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員育成に必要な場合異動はやむを得ないと考えているが、職員異動による利用者の動揺に留意し、知らせは個別のたより、電話、広報紙「便り」等で知らせ、歓送迎会を催すなど、入居者の影響に配慮している。一方働きやすい職場環境を目指し、休務希望は可能な限り受け入れ勤務調整に務めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部が一体的に人材育成に取組み、2010年度は新人向けにOJTの見直しをしている。ケアに携わる職員としての基礎的な科目の研修を通年で行っている。内外とも、研修終了後の復命研修、資格取得のための模擬テストの実施、資格取得後の資格手当を設け、職員のキャリアアップを支援している。正職登用のための対策に、勉強会を毎月開催するなど、仕事への意欲を支援し、職場全体のモラルアップ体制の構築に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府認知症グループホーム協議会に加入し、合宿などに参加し同業者との交流を図っている。京都老人福祉学会には、毎年参加し発表しており、他の事業所との情報交換は大いに参考になっている。同種の事業所の見学の機会ももっているが、内容的に活かしきれていないとの反省がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	宿泊体験制度はない。しかし入居希望者には、家族も共にホームで他の利用者と同じ可能な限り過ごし、場に馴染まれることを勧めている。来所の利用者や、家族に対しては不安な心境を傾聴し、入居後の過ごし方を説明。利用者のため、入居後の家族の訪問を依頼。寂しさや、混乱を軽減するため、親しんだ物品の等の持ち込みを勧めるなど丁寧な説明と、関係づくりに留意している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや、感情を理解し、共感しながら、利用者の出来ること、得意な事柄を見出せるよう情報収集、協働作業に務めている。畑仕事を得意とする利用者には、ホームの畑作業に知恵を発揮してもらい収穫につながるよう支援。料理を得意とする利用者は、食事づくりに参加してもらい、共にホームで生活し合う存在と実感しあえるよう関係の構築に取り組んでいる。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申込み時、家族・生活・医療にかかる基本的な情報を収集し、利用に至るまでの生活歴を記録している。昨年アセスメントにセンター方式を採用しようと、家族に用紙を配ったが反応はとぼしく、しかしこれら情報をも踏まえつつ日々の傾聴や、生活、家族からの情報やかかわりの中から利用者一人ひとりの思いを引きだし、課題把握に取り組んでいる。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用当初の利用者・家族の情報を踏まえた暫定的なものから、利用後得た情報や、把握した生活の様子を職員会議で意見を交わし、利用者の生活歴を踏まえ利用者の思い、家族の希望を中心にすえた介護計画を家族同意のもと作成している。毎日散歩がしたい。ゆったりと入浴がしたいなどのニーズに、サービス内容の詳細が記され、個別具体的な介護計画になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	今年度、利用者の介護ケース記録の様式を1ヶ月1回評価できるものに変更している。日々の介護ケース記録には介護項目が記載され、時間経過に沿って支援内容が記録されている。今まで、介護計画の見直しは、ほぼ1年に1回の実施で経過してきたが、今年度から1ヶ月毎に評価を行い、見直しの可否をチェックするよう記録様式の変更に着手した。このことが利用者支援にどのように反映されるか今後期待した		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは、本部グループとは研修や、行事、人材面において可能な限り連携している。例えば旅行や、イベントに利用者が参加したり、人材面では看護師、管理栄養士に相談をするなど、ホームの利用者のケアや、交流機会、活動機会の拡大に活かしている。理美容の付添い、送迎、家族が無理な場合の通院同行の支援などもしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は家族や、利用者の馴染みの医師を継続されることが多いが、家族の通院同行ができない場合は、職員が同行し受診をしている。情報は文書・口頭で伝え結果を伝えている。歯科医師の訪問診療については必要に応じ依頼し、定期健診は年一回行われている。協力医療機関に物忘れ外来があり、相談や支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針は経口摂取が出来ず、痛みを伴う終末期の看取りは現時点では対処できないと定め、家族、職員ともに共有できている。一方重度化による看取りは本人や家族の意向を確認し、職員・家族で主治医に相談しつつ、ホームで可能なケアの範囲を職員会議で検討し、ケアプランに落としチームで対処する方針である。重度化や終末期に関するマニュアルや、職員研修が望まれる。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の周りを気遣うような声かけに対し、特にトイレ・風呂における職員のケア、言葉かけに留意している。トイレの施錠、居室の施錠はもとより、むやみに入らない、ノックするなど、見落としがちになるマナーを、意識化するよう職員間で、周知を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを第一に、おおまかな1日のタイムスケジュールはあるが、起床・就寝・食事・入浴の個人差を優先させている。外出、余暇の過ごし方、掃除等無理強いせず、声掛け、尋ね、確かめての支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は職員、利用者で近隣に買い物に向いている。店頭 の食材如何で献立もかわる。献立は長年食べなれた内容 で、畑で取れる自前の野菜を使えるのも、このホームの強み である。「手作りの食事は工夫されている」と家族も評価し、 ゆったり、音楽を聞きながら、職員と共に談笑し食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は希望に沿っている。毎日入浴している人も あり、夕食後入る人も、早朝入る人もある。マンツーマン、同 性介護を原則としている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、職歴、趣味、嗜好から、日々の生活に楽し みとして活かせるよう、利用者ごとに調べ支援している。長 年されていた職業について話を聞くこともある。地元の貢献 に公園清掃に取組んでいる。花の水やり、畑作業・助言、洗 濯たみ、食事手伝いと、無理なく、気晴らしの一環、役割 を果たす観点から取組みを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその 日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援 している	買物、畑仕事、草花いじり、ごみだし等、極力ホームから出 かける機会を設けるよう努力している。移動能力の低下も作 用し、畑仕事、外出が難しくなってきたが、月単位の行 事計画の花見、一泊・日帰り旅行、地元の祭りと、利用者にと って、大きな楽しみになっているため、それぞれ工夫し参 加できるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に 鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけな いケアに取り組んでいる	施錠はしないケアが当ホームの方針である。一度無断外出 され、行方不明者がでたが、たとえ施錠しても、鍵の開錠が 利用者も可能な範囲にとどめ、出かけたときには、出かけ られる支援をと考えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、通報機、感知器を設置し、訓練は年6回計画してい る。近隣に防災関係の役員もおられ、法人本部は近隣の 防災協定を締結している。スプリンクラーは現段階未整備で ある。訓練前後に各々利用者に話し意識の定着に務めてい る。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士に栄養バランス等の相談をしている。献立や、料理の形態に配慮し、糖尿病食は医師の指示を得ている。月2回体重測定をし、水分も1000ccの確保を目標にしている。カロリー計算はされていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの前は交通量の多い車道で、横断はままならないが、ホームの敷地内は広く花が植えられ、手入れも行き届いている。ホーム背後は畑で、敷地内はゆとりがある。屋内は明るく、壁には家族から提供された写真、利用者の作品が飾られている。オープンキッチンのあるリビングで団欒されている。食事づくりの手伝いや、ちょっとした作業が、共に出来る広さがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台が準備されている。木調ベースにした室内は、シンプルで、清潔感があり、明るい。室内は、ベット、畳敷きに布団と部屋の改造は可能である。その部屋に筆筒、机、ソファ等利用者により思い思いの調度品が持ち込まれ個性が窺える。		